

第 33 期第 3 回研究会「臨時災害放送局の社会的機能と課題」（ジャーナリズム研究・教育部会企画）のご案内

日 時：2012 年 2 月 28 日 午後 3 時～5 時
場 所：龍谷大学大宮キャンパス 南翼 105 教室
(京都市下京区七条通大宮東入大工町 125-1)
<http://www.ryukoku.ac.jp/omiya.html>

問題提起者：松浦哲郎 (龍谷大学)
司 会：小黒 純 (龍谷大学)

東日本大震災にともない、被災地に立ち上げられた臨時災害放送局（以下、臨災局）は 26 局。それらの開設経緯、現状、課題などを報告し、今後取り組むべき事柄について、提言する。

まず、開設経緯と現状として、具体的に以下について言及する。

- (1) そもそもなぜ、市町村を放送エリアとする臨災局の開設が必要とされたのか。
- (2) 同時期になぜ、多数の臨災局が、比較的迅速に放送免許を取得できたのか。
- (3) 臨災局の機材、設備、人材はいかに集められた（集まった）のか。
- (4) 開設・運営資金はいかにまかなわれているのか。
- (5) 何を放送しているのか。
- (6) 誰が聞いているのか。

また課題として、編成の不足や、役場・役所との連携不足、編集権の不確立（役場職員による放送内容の事前チェック）などを挙げる。

これらの課題を、いかに解決すればよいのだろうか。現在多くの臨災局では、今年度末、あるいは来年度末で放送局を廃止するか、恒常的な放送局（コミュニティ放送局）の開設を目指すかで、議論をたたかわせている。その背景についても触れたい。

最後に、今後取り組むべき事柄について提言する。まず、非常用機材や設備の備えを、複数の放送局が連携して行うこと。また、自治体は、緊急時における臨災局の立ち上げを前提とした施策を打つこと。これらの取り組みに対して助成を行う基金を創設すること。

この提言を実行に移すためには、臨災局の公共性が明白に示される必要がある。それには、研究者も含めたさまざまな立場からの調査、検証、分析が不可欠となる。

<エクスカーションのご案内>

研究会開催前に、会場に隣接する「龍谷ミュージアム」の見学会を、次の要領で開催します。

龍谷ミュージアムは昨年春に開設された、国内初の本格的な仏教の総合博物館です。特別展は「釈尊と親鸞」。また、デジタルアーカイブ化の最新技術による、ベゼクリク石窟寺院（中国・新疆ウイグル地区）の仏教壁画の復元も、ご覧いただけます。

当日は学芸員による解説、世界最高レベルの超高精細映像の上映などを予定しています。こちらにもぜひご参加ください。

●日時： 2012年2月28日（火） 午後1時20分 ～ 午後2時40分

●場所： 「龍谷ミュージアム」

<http://museum.ryukoku.ac.jp/guide/map.html>

京都市下京区西中筋通正面下る丸屋町117

TEL. 075-351-2500 FAX. 075-351-2577

○ JR・近鉄・地下鉄烏丸線「京都」駅から徒歩約12分

○ 地下鉄烏丸線「五条」駅から徒歩約10分

●集合場所： 同館地下1階 受付カウンター前

●入館料： 500円

●申し込み： おおまかな参加者数を把握するため（予約ではありません）、ご希望の方はメール(ogurojun@gmail.com)でご連絡ください。タイトルを「龍谷ミュージアム見学会」とし、本文に①氏名、②所属を記入。

●問い合わせ先： 小黒純（龍谷大学）、ogurojun@gmail.com、携帯電話 090-9216-0669